



春日部市議会議員 佐藤 一

# はじめ さとう — 後援会だより

絆をつないで、  
KIZUNA 活力ある、  
魅力ある春日部に

後援会内部資料  
第31号 発行  
平成28年4月吉日  
さとう — 後援会  
会長 佐藤松夫  
春日部市小洲 1912  
Tel/fax  
048-761-7753

## 私の一般質問（平成28年3月議会報告）

### ① 「第三次春バス運行計画について」

**質問** 春バスの第三次春バス運行計画は新市立病院つまり「春日部市立医療センター」の開設に合わせて開始されると伺っています。春バス運行の進捗状況について。バス停の設置について。初乗り運賃が100円から150円に増額となる理由について。対距離運賃制に変更となる理由について。他市のコミュニティバスとの比較について質問を行いました。

**答弁** バス停については300mから600m間隔の設置を基本とする。市民意見やバスの運行事業者や道路管理者、警察、学校等の意見を伺い、安全に十分配慮して選定する。営業係数の目標値を現状の470円から400円とした。現状の公費負担率の水準を維持しても初乗り運賃を150円とし、地域公共交通活性化協議会においても承認された。利用者にとって公平な、利用距離に応じて料金が加算される対距離運賃制にした。運賃の上限については、現行と同様300円とする。公費負担率は、近隣市や同規模自治体が平均約82%だが、春日部市は78%から約75%に減少する。営業係数では、同規模自治体が平均602円だが、春日部市は398円です。



※営業係数とは、100円の営業収入を得るために、どれだけ費用をかけているか、を見る指標のこと。



### ② 「中心市街地の地区計画について」

**質問** 去る2月29日に「西武春日部店」の閉鎖となり、商業によるにぎわいは悪化していくものと考えます。中心市街地のまちづくりについて、どのように認識しているのか。中心市街地の活性化維持について。粕壁東2丁目地区計画について。今後のまちづくりの考え方について質問を行いました。



**答弁** 中心市街地は、春日部市の顔である。但し、活性化が失われてきている状況にあり、これまでの拡大路線から持続可能な都市構造へと変換を図る必要がある、立地適正化計画の策定が必要で、現在策定を進めている。立地適正化計画に即した新たな地区計画制度も活用することが効果的である。粕壁東2丁目の地区計画は、春日部駅東口より約500mに位置する商業地域で市民文化会館、市立図書館、大規模商店や一部住宅地を含む約5haあり、昭和60年に定めた。主な内容は、建築物の用途の混在による環境悪化を防止するため、風俗営業施設等の制限などを定めている。まちづくりの考え方としては、行政が行うもの、地域の皆様が行うもの、行政と地域が一つになって行うものがある。行政と地域が一体となって行うものは、立地適正化計画や地区計画などがある。地区計画での土地利用の制限では、マンション開発などで、1、2階に店舗や事務所などを設置することを要件に、現状の容積率の上限を緩和することが可能で、これにより活性化の維持に繋がると考える。地区計画では、地域の皆様が主体であり、行政と一体となって協議することが必要である。



**要望** 春日部西武跡地が売却建て替えとなった場合には、商業施設が作られるように新たな地区計画を地域の皆様と協議してください。

### ③ 「大手地図メーカーとの災害時支援協定締結について」

**質問** 大手住宅地図メーカーの株式会社ゼンリンは、ゼンリン自治体支援プロジェクトを行っています。埼玉県では、さいたま市、越谷市、吉川市がゼンリンとの間に「災害時支援協定」を結んでいます。その内容について。大手地図メーカーとの取り組みを行う考えはあるか。また、災害図上訓練「DIG」の取り組みについて質問を行いました。

**答弁** 目的は、災害が発生、発生の恐れがある場合において、災害対策本部を設置した時にゼンリンの地図製品等の供給及び利用等に関し必要な事項を定めることや平常時から防災に関する情報交換を通じ、互いに連携し、防災、減災に寄与する地図作成の検討、推進をし、市民生活における防災上の向上に努めることになっている。今後、協定締結に向け、協議を進めていきたい。DIGは、防災士養成研修で使用されている。自主防災組織における防災活動の積極的な展開を図るため、引き続きDIG（ディグ）の実施に努めていく。



これからも、「さとう一<sup>はじめ</sup>」は、市民の皆様のために頑張ります!!

公式ホームページ <http://satouhajime.com/>

※ ブログ・facebookページもあります。

